

視察報告書

委員会名	市民福祉常任委員会					
視察日時	平成27年11月17日(火) 9時30分～11時00分					
視察先	市町村名	滋賀県米原市	人口	39,871人	面積	250.50k㎡
視察項目	地域お茶の間創造事業に関する調査					
視察参加議員	井上健作、松月よし子、浦伊三次、三嶋俊蔵、黒田公二、徳安達成、田中菊雄					
視察随行職員	西正文					

視察概要

滋賀県の米原市は、平成17年2月に3町の合併により誕生し、さらに同年10月に近江町と合併し、現在の米原市となった。合併当初は人口増を期待していたものの、年々人口が減少しており、高齢化率も27.3%まで上がり、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増加していた。このような状況から、見守りや声掛けを行う自治会役員や民生委員児童委員の負担が増大し、地域の課題となった。

米原市は、高齢者をとりまく課題を把握するために、一人暮らしの高齢者等に聴き取り調査を行った結果、高齢者が話し相手や交流を求めていること、自身の健康を心配していること、病院やスーパーへの車両による送迎のニーズがあることを把握することになった。また、団塊の世代を中心に意欲と能力がある元気な高齢者が多く、活躍の場を求める声も多く寄せられた。

米原市では、高齢者のニーズの多くが専門性を必要としない地域でも実施できるものが多かったことから、「できること」と「やって欲しいこと」をつなげようとしたことがきっかけとなり、地域支援とコミュニケーションの場として「居場所」をつくり、互助によるコミュニティの構築と地域の活性化を図る「地域お茶の間創造事業」に取り組んでいる。

地域お茶の間創造事業

【モデル事業】平成25年度、平成26年度

米原市は、モデル事業として「地域お茶の間創造事業」を開始し、高齢者等が自由に集うことができる地域の自治会館や集会所、空き家等を拠点として事業を展開した。

同事業では、居場所に同じ趣味や活動を行う人が集まって、健康づくり活動や食事会、学習、おしゃべりの会など、地域課題の解決に向けた様々な取り組みを実施する「居場所づくり事業」や、居場所を拠点として家事の手伝い、子育ての手伝い、外出の手伝い、生活支援サービス、見守り活動など、高齢者や障がい者等を訪問してサービスを提供する「ボランティア拠点事業」が展開されていた。

事業の開始にあたって実施団体を募集し、平成25年度は7団体、平成26年度は6団体を採択し、市は年間60万円の補助金を交付している。事業団体の内訳は、自治会が3団体、自治会の承認を得た任意団体が9団体、任意団体が1団体であった。

(主な事業効果)

- ・住民同士の交流が活発になり、地域で支え合う機運が高まっている。
- ・自治会長、民生委員以外の支援者の確保と居場所で見守ることができている。
- ・居場所で情報の収集、共有が行われている。

(課題)

- ・一部のスタッフに負担が偏っている。
- ・居場所に来ることがない人への対応ができていない。
- ・運営のためにボランティアサービスを有償とすることに抵抗がある団体がある。

2年間のモデル事業では、市内13地域において地域の支え合い活動が展開され、高齢者同士のコミュニケーション、顔が見える関係づくり寄与した。モデル事業の成果と課題を踏まえて、平成27年度以降も「地域お茶の間創造事業」が実施されている。

【平成27年度以降の展開】

- ・常設制度として全市に展開している。
- ・市が実施団体に対して初期支援を行った後は、自主財源を確保するために団体が有償サービスを展開することを求めている。
- ・事業を週に1回以上実施することを条件に補助金を交付している。
- ・居場所における「子育て支援事業」をメニューに追加。
- ・居場所に通うことやスタッフとの交流が介護予防につながるとの観点から、新しい総合事業（介護予防・日常生活支援総合事業）の担い手として補助金を交付する。
- ・市民の支え合い活動の拠点となる「地域支え合いセンター」を設置し、ボランティアコーディネーターと生活支援コーディネーターを配置する。
- ・団体間の人材派遣・生産物の販売拡大・今後の設立団体への支援を行う。
- ・新しい総合事業（介護予防・日常生活支援総合事業）の担い手への展開支援を行う。

(今後の課題)

米原市は、高齢者の生きがいをづくりのために、居場所で行う作業が収入につながる取り組みを重要視しており、高齢者が編んだワラジを保育園に買い取ってもらう取り組みも実施されていたが、今後の地域ビジネスの確立が課題とされていた。

意見（本市にとって活用すべき事項・課題など）

米原市は、少子高齢化や人口減など課題に対して、行政組織が横断的に互助によるコミュニティの構築と地域の活性化を目指す取り組みを行っており、さらに、お金が回るしくみの構築のため、ボランティア人材活用（有償）を含め模索し実現化を目指して取り組んでいた。

糸島市も米原市と共通の課題があり、これらの取り組みを参考にしながら、課題解決に取り組むべきである。